



ワークショップ

地震災害後の 人文学プロジェクトの回顧と 研究者の役割の探求

Workshop. Reviewing the Humanities and Qualitative Social Sciences Projects After
Earthquake Disaster and Exploring the Role of Researchers



日時

2015. 10.24  -25 
(13:00 ~ 17:30) (9:00 ~ 13:00)

October 24-25th, 2015

会場

東北大学東京分室

Tohoku University Tokyo Office

発表者

スハディ (ガジャマダ大学)、閔麗 (四川大学)、S.ブーテレイ (カンタベリー大学)、今石みぎわ (東京文化財研究所)、岡田浩樹 (神戸大学)、木村周平 (筑波大学)、木村敏明 (東北大学)、黒崎浩行 (國學院大学)、滝澤克彦 (長崎大学)、三木英 (大阪国際大学)、芳賀満 (東北大学)、高倉浩樹 (東北大学) ほか

〈Speakers〉

Suhadi Cholil (Gadjah Mada University, Indonesia), Min Li (Sichuan University, China), Susan Bouterey (Canterbury University, New Zealand), Imaishi Migiwa (Tokyo Institute of Cultural Property), Okada Hiroki (Kobe University), Kimura Syuhei (Tsukuba University), Kimura Toshiaki (Tohoku University), Kurosaki Hiroyuki (Kokugakuin University), Takizawa Katsuhiko (Nagasaki University), Miki Hizuru (Osaka Kokusai University), Haga Mitsuru (Tohoku University), Takakura Hiroki (Tohoku University)

主催：東北大学東北アジア研究センター | 災害と地域文化遺産に関わる応用人文学研究ユニット
Tohoku University Center for Northeast Asian Studies

共催：東北大学大学院文学研究科、東北大学高度教養教育・学生支援機構

2004年インドネシア・スマトラ沖地震や2006年のジャワ中部地震、2008年の中国四川大地震や2011年のニュージーランド地震、そして東日本大地震に直面した人類学・宗教学・地域研究の研究者の経験を報告し、そこで考え、実施された研究者の多様な役割の可能性について討議する。人文学の知の特徴は、現状の社会的文化的過程を深く理解することにある。一方、社会的仕組みを積極的に改善することはこれまで充分に取り組みられてこなかった。このような人文学のありかたは震災を通して変化したのだろうか。実際に実施された具体的なプロジェクトに言及しながら、人文学研究者が貢献可能な領域について検討していきたい。

After the recent gigantic disasters in the world, universities implemented various projects either for academic or practical purposes related to contribution to recovery. Reflecting on concrete projects, we will discuss the methodology, social significance, and problems to find the field of contributions for the humanities and qualitative social sciences.

- ❖ 使用言語：24日＝英語、25日＝日本語
- ❖ 会場の都合上、参加希望者は事前に連絡をお願いします。

【問い合わせ先】 山口 睦 (教育研究支援者)
mutsumi.yamaguchi.d4@tohoku.ac.jp

TOHOKU
UNIVERSITY